

クラス	TU105	担当教員	中里 南子
テーマ	音楽表現（演奏法・アンサンブル研究）		
著書・論文 研究課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・（楽譜）「Mosquito Etude No1 in C-flat Minor」ふくろう出版 2011 年 ・（論文）「日本の伝統的な音楽の鑑賞学習に関する一考察 J ポップ教材を導入として」全日本音楽教育研究会誌 2010 年 ・「J ポップにみられる装飾的旋律の歌い方」音楽教育実践ジャーナル vol.5 no.1 2007 年 ・（共著）『五線譜の約束』 明星出版 2006 年 ・（その他）「別冊宝島 音楽誌が書かない J ポップ批評 57～60」20 別冊宝島社 1588 号・ 1898 号 他 2009 年 ・（CD）「二胡の音色 東方の情調」二胡・ピアノ他 キングレコード NKCD1366 2000 年 		
ゼミナール概要			
キーワード：音楽表現・演奏法・アンサンブル研究			
<p>本ゼミでは、音楽表現をキーワードに、私たちが本来持っているはずの感性・音楽性を表現するとは何かを、私たちの身の回りにある音楽や、普段あまり聞く機会の少ない音楽、または、小学校における教科書・子どもの歌を手掛かりに、探求できたらよいと考えています。その手段として、このゼミでは「<u>演奏表現</u>」を行います。演奏表現内容は、皆さんと一緒に決めます。また、発表会なども自分たちで話し合いながら企画し、進めていきますので「人前で演奏はしたくない」「音楽系科目はチンプンカンプンだった」という人は厳しいかもしれません。</p> <p><演奏表現例></p> <p><u>皆さん自身で考えていくので、仮ですが例えば、オペレッタ制作・リコーダーアンサンブル・ピアノアンサンブル・トーンチャイム・ハンドベル・ボディーパーカッション・ピアノ独奏・ピアノ連弾、など考えています（演奏のみの場合、報告書作成）。</u></p> <p>また、希望によっては子どもの歌や、皆さんの身近な音楽、または小学校の教科書に掲載された音楽を、あらゆる視点で分析することも行いたいと思っています。そして、これらを通して自身が演奏することで、自らの感性、音楽性を表現する事を学びます。更には、そのような表現を子どもに伝えるには、どのような方法がよいかを協議しながら皆さんと一緒に考えていきます。</p> <p>参考に 2011 年「卒業演奏：ピアノ独奏（報告書付）」の曲目を例として挙げておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ F.Chopin ETUDE Op.10-No.12 Fantasie Impromptu Op.66 ・ F.Chopin NOCTURNE Op.9-No.2 Es-dur ・ Maurice Ravel SONATINE pour piano II Mouvt de Menuet III Mnimé ・ Heino Kaski Prelude Gesdur Op.7Nr.1 Nacht am Seestrand Op.34Nr.1 Das alte Glochentürmchen Op.48Nr.2 Oskar Merikanto Summer Evening, Waltz Op.1 <p>授業計画</p> <p><u>学生主体のゼミ運営を基本に考えていますので、具体的授業計画は、皆さんと相談して決定していきませんが、個人またはグループでの活動を中心に大きく次のように考えています。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、各自またはグループで関心のあるテーマ、目標を早期に設定し、それを達成できるような進行を学生と協議して決定します。 2、演奏や分析など、各自が興味をもつ内容について集中的に学習し、そこで得た知識や技能を実践の場で展開するための方法を探ります。 3、自ら設定したテーマを基に、演奏により自ら表現し、子どもへの教授方法を探ります。 			
担当教員からのメッセージ			
<p>「音を媒体として何かを作り上げていく事」に熱意のある学生の参加を望みます。自己の能力向上の熱意のない人に、他者の演奏表現に熱意を持って手助けすることなど期待できないからです。</p> <p><u>希望の学生は必ず、私（中里）と一度はお話をしてから決めて下さい。</u></p>			